

【2024年】 小学生が地下ダムの仕組みを学習(第9回夏休み野外学習会)

沖縄総合事務局土地改良総合事務所では、8月1日(木)、2日(金)に沖縄本島南部土地改良区の協力のもと「夏休み野外学習会」を開催しました。糸満市、八重瀬町の小学生4~6年生とその保護者を対象とし、2日間で40名の方に参加いただきました。学習会では、国営で造成された農業水利施設である米須地下ダム、慶座地下ダム、仲座ファームポンド、仲座加圧機場の順で回り、教材で説明しながら施設の見学を行いました。新型コロナウイルスの影響もあり、前回の令和元年度から5年ぶりの9回目の開催となりました。

米須地下ダムでは「すごいぞ！地下ダム」を使用して、地域の特徴、地下ダムの目的、地域の農業への効果について説明後、スプリンクラーによる散水の見学を行いました。慶座地下ダムでは児童たちが直接止水壁天端からの越流水に触れ、水温を確かめています。また、施設に生息するテナガエビなども興味をもって観察しており、多くの生物が生息していることから水質の良さも実感していました。仲座ファームポンド・加圧機場では、山の上にあるファームポンドの自然圧だけでは水が届かない所もあるため、加圧する必要があることなどを説明しました。その後、ファームポンドに登り歩廊を一周したあとに、点検用ハッチから中の水の状況を見学しました。

学習会後に回収したアンケートでは印象に残った施設として、慶座地下ダムと回答した生徒が約70%でした。また、多くの好意的感想が寄せられ、「沖縄本島南部土地改良区の方たちが1年365日24時間施設を管理していてすごいと思った。(小学生)」、「水の大切さを学ぶことができた。(小学生)」、「理解しやすい解説がよかったです。完食や地産地消の推進がとても心に響いた。(保護者)」、「農業への熱い思いがとても伝わり、今後も続けていただきたい学習会だった。(保護者)」との、地下ダムPRを実感する感想もありました。当事務所では、今後も土地改良区と連携して、学習会を開催していきます。

